

罪人の計らいと神の計画

ミカ書 2 章

見よ、わたしはこのやからにむかつて災を下そうと計る。あなたがたはその首をこれから、はずすことはできない。また、まっすぐに立つて歩くことはできない。これは災の時だからである。(3)

ミカの時代、ユダ王国は表面的には栄えていましたが、指導者たちは権力を悪用して私腹を肥やし、そのために社会構造が崩壊しかけていました。貧しい者たちから土地を奪い取るにより、社会の底辺の人々はいよいよ貧しくなり、奴隷となつていったのです。

ミカはそのような悪辣な指導者たちに神の審きが下ることを告げます。主は彼らの不義を見過ごしにはされなかつたのです。権力者たちが寢床で悪しき計画を立てている一方で、主は彼らの審きを計画しておられたというのです。「見よ、わたしはこのやからにむかつて災を下そうと計る」。すなわち主はアッシリアや帝国を用いて、彼らが貧しい人々にしたのと同じことを彼らの上になされるのです。そのときの彼らの嘆きの声が記されています。「われわれの田畑はわれわれを捕えた者の間に分け与えられる」(4)。主は彼らが犯した罪にふさわしい刑罰を与えようと計画しておられました。この主の審きに対して、彼らは不平を言うことなどできません。それは彼ら自身が他の人々に対して計画したことの報いを受けているに過ぎなかつたからです。

主の審きは、わたしたちの罪に対する当然の報いであることを忘れてはなりません。わたしたちがその審きから逃れることが出来るのは、ただ主の憐れみによるのです。